

来年のカメムシ類の被害を抑えるため 秋耕を行いましょう

令和7年9月
栃木県農政部経営技術課

収穫後の水田を耕す秋耕（しゅうこう）は、カメムシ類の越冬前の餌場となる再生稲（ひこばえ）を除去し、翌年の斑点米カメムシ類の被害を軽減するための重要な作業です。



昨年度の再生稲ですくい取り調査を

行った結果、県南地域において

イネカメムシの成虫が200頭

以上捕獲されたほ場がありました。



● イネカメムシの行動と影響 ●

- ・イネカメムシは水稻の穂に集まり餌として吸汁加害する
- ・成虫は越冬前に、再生稲の穂に集まり栄養を補給する
- ・出穂した再生稲があると、越冬できる個体数が増加し、翌年の発生量が増える可能性が高まる

秋耕の効果

- ・餌場となる再生稲の発生を防止
- ・翌年の斑点米発生リスクを低減

実施のポイント

- ・収穫後できるだけ早く耕起を行う
- ・15cm以上を目標にゆっくり荒く起こす



秋耕は、簡単にできるカメムシ対策の第一歩です。地域ぐるみで取り組み、斑点米の発生を防ぎましょう！